

# 日刊 勤労千葉

86.8.18  
No. 2322

## 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二二七二〇七

### 勝利の路線・方針が あれば必ず起つ 労働争闘・共産党

定員法闘争  
共産党・民同の裏切り

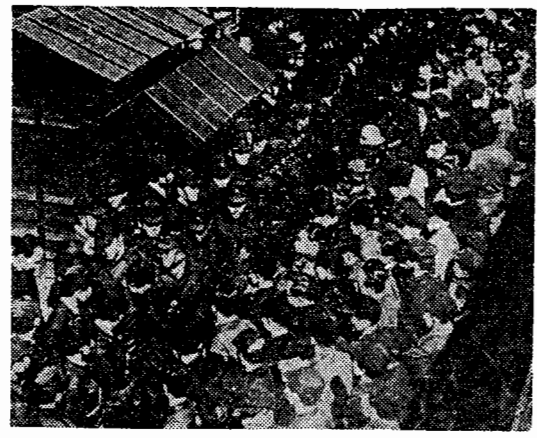
一九四七年一月三十一日、米占領軍の命令、共産党指導部の屈服によって「二・一ゼネスト中止」された。しかし、労働者はインフレのもとで飢餓状態におかれながらも敗けてはいられなかった。怒りに燃えて直ちに闘いに起ちあがった。

四八年七月、すべての法に優先するマッカーサー法令「公務員の争議権否認」書簡が出され、公務員のスト権ハク奪、四九年、国鉄は公社化され定員法が強行施行されるなかで、新交番制反対国電ストが実施され、人民電車が走った。国労中央委は定員法に対しストで闘う方針を決定していたが七月、九三七〇〇人の国鉄第一・二次解雇通告がかけられる中で、下山、三鷹、松川三大謀略事件が発生、定員法闘争は敗北。

その原因は、共産党の米占領軍に対する解放軍規定による裏切り。国労のスト方針決定にもかかわらず、ストを一度もつたず裏切っていた民同によってひきおこされた。

権力に恐怖をあたえた  
国鉄新潟闘争

五七春闘に対し新潟鉄局は、国労新潟地本の二人に懲戒免職攻撃を行った。新潟地本は反撃へ連日ストに突入、当時新鉄局長・河村勝の権力導入に五人逮捕に対し、怒りの一斉無期限ストに戦術拡大されたにもかかわらず、敗北は敵の弾圧、処分によるのではなく、国労中央民同の統制によるもので、結果として十九人解雇、刑事弾圧の拡大、そして敗北感を温床にした二組新地労（現・鉄労）結成につながっていった。新潟闘争は労働運動の高揚を切り拓き、何よりも権力に恐怖を与えた闘いであったが故に、さまざまな弾圧攻撃をかけてきたのであった。



国鉄新潟闘争弾圧のために大学出動し庁舎に逆ピケを張る警官隊と対峙する国労新潟の労働者（57年7月）

たたかれても、裏切られても  
屈服しない国鉄労働者

これらの闘いからの教訓として、  
○敗北は指導の問題であって勝利の路線・方針があれば必ず起つ、国鉄労働者が起つて闘い歴史をみれば明らかである。

勤労千葉第二期労働学校、第十回講座が八月九日開催され、講師の労働運動研究家・大塚宏氏より「戦後労働運動史・その一」をテーマに行われた。戦後四十年間の労働運動の歴史において労働者の決起によって革命にまでつきすすむ可能性をもった国鉄定員法闘争、国鉄新潟闘争を国鉄分割・民営化攻撃のなかで、どのようにとらえるか、なぜ敗北したのか、その闘いをのりこえ勝利するにはどう闘うのか、を鮮明にうちだし「十一月ダイ改」阻止闘争への勝利の道しるべをさし示した。

【訂正とおわび】8月16日付「日刊」の号数に誤りがありました。正しくは「第三三二一号」です。おわびして訂正いたします。

○従って中央の指導を口をあけてまつようでは敗ける。職場からの反撃を中央幹部批判闘争をふくめて横につなげていく。  
○民同・革マルなど、労働者内部の裏切り者との闘い。  
○国鉄労働者の闘いは日本労働者階級の死活がかかっており、階級全体の決起の突破口としてある。  
○国鉄が敗ければ、次には日教組、自治労攻撃としてかけられ、そして、戦争へとつながってしまう。

そして、何よりも国鉄労働者は限りない戦闘性をもっている。たたかれてもたたかれても屈服しない。マル生闘争もそうだ。そして勝利した。

国鉄労働者は裏切られても決起し、闘いぬいてきた歴史をみすれば必ず勝利の展望がひらけるものだ、と話され労働者学校は終了した。

- | 1948年                                    | 1949年  |
|--|--|
| 7・22 マッカーサー 公務員の争議禁止のための法改正を要望           | 3・7 2・1 来日のドッジ公使 日本経済安定策（超均衡予算など）を明示（ドッジ・ライン）                        |
| 7・31 政令201号公布実施（公務員の争議権・団体交渉権を否認）        | 6・9 新交番制・行政整理反対の国電スト 神奈川から始まり拡大 10日東神奈川人民電車事件 11日GHQ スト中止命令 12日～平常運転 |
| マッカーサー書簡による政令201号公布で30日の全通につき国鉄労組 非常事態宣言 | 7・4 マッカーサー 日本は共産主義進出阻止の防壁」と言明 国鉄第1次人員整理 3万7000人を発表                   |
| 8・5 政令201号反対で国鉄松山機関区乗務拒否 各地に拡大           | 7・5 国鉄総裁下山定則行方不明 6日日常警線で死体で発見（下山事件）                                  |
|  | 7・12 国鉄第2次人員整理 6万3000人の通告開始  |
|  | 7・15 国電三鷹駅で無人電車暴走 6人死亡（三鷹事件）   |
|  | 8・17 国鉄東北線松川一金谷川駅間で列車転覆 乗務員3人死亡（松川事件）                                |



下山事件



松川事件



三鷹事件

一九四九年には、ドッジ・プランのもとで、緊縮財政行政整理のための、いわゆる定員法（行政機関職員定員法）が成立（四九・五）、国鉄ではいっきに一〇万人の労働者の首が切られたのだ。とりわけ、それまで組合の中心的活动家であった共産党員とそのシンパはことごとく選別的にパージ（レッド・パージ）された。またこの攻撃は、下山・三鷹・松川事件とこれをつかた反共・反国労キャンペーンによって、国鉄労働者のいっさいの反抗の芽をおしつぶすなかで強行されたのである。今日にいたる公共企業体としての国鉄日本国有鉄道公社が、この一〇万国鉄労働者の首切りと三大謀略事件という血ぬられた歴史のなから出発した事実を忘れてはならない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！